

小学校における花育活動の実践マニュアル

(世田谷区立中町小学校における花育実践事例より)

- 1 実践事例の紹介

1 はじめに

世田谷区には小学校が64校あり、その小学校を行政区分として8つのブロックに分けている。今年度は、各ブロックの2校がフラワースクールとして花育推進校に指定された。本校もその中の1校である。各学年がそれぞれ発達段階に応じて、花づくりに取り組んでいるが、ここでは、その中の総合的な学習の時間に取り組んだ5年生の「緑がいっぱい、花いっぱい」の実践事例と生活科の学習で1・2年の児童が10年以上前から近くの農家の方に教えていただいているコンテナガーデンづくりの実践事例の二つを報告したい。

2 実践事例

年間を通して花に親しんだ「緑がいっぱい、花いっぱい」5年 総合的な学習の時間
<この活動のねらい>

自分たちが住んでいる町の自然環境を調べたり、野菜や花を育てたりして、自分たちの生活の中で自然や花の果たす役割を考え、大切にしたり広めたりすることができるようにする。

(1) 花を楽しむことになったきっかけ

自分たちが住んでいるこの町には花や緑が多いのか少ないかを問かけると「東京は、店や家が多く花や緑は少ない」という意見と「見た限りはかなり多い、公園や学校にもたくさん緑はある」という2つの意見に分かれた。

そこで、実際に地域を歩いて調査してみた。その結果、どの家にも植木鉢や花壇があり花や野菜、木などが植えられていた。中には、屋上にまで木を植えている家もあった。

なぜ、人々は植物を育てるのかを話し合った結果、「癒される」「気持ちが安らく」「育てることが楽しい」「きれい」などの意見が出された。また、調査している最中、近くの園芸農家に立ち寄った。ビニルハウス中に咲いているカーネーションに感動した子どもたちは、ちょうど母の日が近かったため、花の値段や育て方などについて話を聞いた。この時期に花を咲かせるためには、いつ種をまいたのかという質問に、種からではなく挿し木からだという答えを聞き、二重の感動を得た。また、挿し木にすると丈夫に育つこと、親の株と同じ花が咲くこと、短期間で花を咲かせることができること、植物のほとんどが挿し木できることなどを教わった。

そこで、自分たちも花を楽しむことや挿し木に挑戦することにした。

(2) フラワーアレンジメントで花を楽しむ。

道端や家の庭、学校の花壇などに咲いている花、アイビーなどを持ち寄り、それらをオ

アシスを詰めた空き瓶やカップに自由に挿して、小さなアレンジメントを作った。花を摘む時、挿すとき、持ち帰る時の児童の顔は頬が緩み、皆満足そうであった。中には家族の人数分だけアレンジメントを作った児童もいた。

学校の花壇の花は、伸びている花を中心に形を整えながら切るという条件で、担当者にアレンジ用に切り取ることの許可を得ていた。しかし、花を自分で摘んで飾るという体験が少ないためか、大きく華やかな花を選び切り取っていった児童が多かった。そのために花がみんな無くなってしまわないかと担当者がハラハラドキドキする場面もあった。

その後、フラワーアレンジメント世界チャンピオンの方にその技を見せていただく機会を設けた。小さなハサミ一つで繰り出されるブーケや季節を表現したアレンジに本物の素晴らしさを心から堪能した。

(3) 挿し木に挑戦する。

ほとんどの植物が、挿し木で増やせることをきいて子どもたちは、早速挿し木に挑戦した。しかし、思うようにいかず、園芸農家の方に来ていただいて、挿し木の仕方をゼラニウムを使って教えていただいた。発根しやすいように鹿沼土を使う、生長点がちゃんとあるものを選ぶ、葉は3・4枚にする、適度な湿度を保つ、日陰に置くなどを教わった。

教室において、みんなで世話をしていたが、水のやりすぎで、また、失敗してしまった。3度目の挑戦でポーチュラカ、再びゼラニウム、アイビー、ポトス、芙蓉、カボック、ジャスミンなど花や観葉植物など様々なものを試した。2回の失敗から得たものも多く、かなりのものが成功した。

(4) 今度は種から花作りに挑戦する。

9月に入り、棚から育てる花作りに挑戦した。今回も園芸農家の方に教えていただいた。

花担当の児童が、直接農家の方の家におじゃまして、種の蒔き方を教わった。パンジー、アリッサム、ノースポールの3種類を選んだ。育てやすく、丈夫なことが選んだ理由である。

紙を二つに折り、その中に種を入れて、一粒一粒、育苗箱にまいていった。その中には、セル培養土という土が入れられていた。この土の入れ方も事前に農家の方に教わって子どもたちの手で行った。

今までは、たくさんの種を適当に蒔いていた子どもたちにとって、このような丁寧な作業は初めてであり、大きな驚きであったようである。

(5) 花の世話に農家に通う。

土日の休みが入るため、学校での栽培は難しく、農家の方に種まきしたものを預かっていただくことにした。ローテーションを組んで水やりに毎日通った児童から「芽が出た」「大きくなった」「アリッサムが一番早く大きくなっている」など、生長の様子がその都度報告された。苗はそれぞれが240ずつあり、全部で720の苗である。ビニルポットに移植できるようになるまで預かっていただいた。

(6) ビニールポットへの植え替える。

また、農家の方に来ていただいて、ビニルポットに植え替えた。ピンセットを使って苗

を取り出し、根を傷めないように植え替えていく。土に穴をあけておき、その中に入れていくことは児童にとって楽しい活動のようであった。真白に根が張っていたことも驚きだったようである。

(7) 町を緑や花でいっぱいしよう

育った苗をどのようにするか相談した結果、学校の周りがさびしいのでそこに植える、谷沢川沿いの花壇に町の人がボランティアで花を育てているので自分たちも同じように花を植えてきれいにするなどの意見が出された。また、自分たちだけが育てるのではなく、デイ・ホーム、保育所、幼稚園、児童館などにプレゼントした、そこでも育ててもらおうという意見も出され、それぞれの場所へ植えたり届けたりした。

(7) 花の楽しさをみんなに伝える。

花を育てる楽しさとして、挿し木の仕方や種の蒔き方などを、飾る楽しさとしてリース作りやアレンジメントの仕方を学習発表会で、保護者や全校児童に教えた。今までとは反対の立場に立つことで花の楽しみ方を再確認することができた。

3 実践事例

お花大好き、お世話も大好き「花や野菜をそだてよう」1・2年生活科

この活動は、生活科の学習指導要領内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

を受けて設定したものである。

<活動のねらい>

自分が育てたい野菜や花を植木鉢や畑で育てる中で、育つ場所や生長の様子に関心をもったり親しみを感じたりしながら世話する喜びを味わい、植物を大切にすることができるようにする。

(1) 園芸農家に行ってコンテナガーデンづくりを楽しむ。

1年生も2年生も、11月初めに、自分の植木鉢を抱えて園芸農家まで行き、球根1つと花の苗2つを買ってコンテナガーデンを作っている。自分で選んだものを植えることが、花に親しみ、育てる意欲につながると考えているからである。この活動を2年間にわたって取り入れているが、活動の違いは、1年生はまとめて代金を支払い、2年生はそれぞれがお金をもって行って、自分が買った物の代金を自分で支払う活動を取り入れている。また、それまでに1年生は、朝顔を育て、2年生は、ミニトマト、ナス、オクラ、枝豆、インゲン豆などそれぞれが育てたいものを選んで育てているため、コンテナガーデンを作る際も1年生は花に限定し、2年生はイチゴやパセリなどを植えてもよいことにしている。

(2) 花選びにも個性を発揮する。

たくさんのお花を目の前にして、花を選ぶ際、それぞれの個性が表れる。「白い花が好きだから全部白にしたの」「リカちゃんという名前が面白いから、ちょっと高いけどパンジ

ーはこれにする」「パセリも植えてお母さんにあげる」「金魚草って、本当に金魚みたい。かわいいからこれにする」「アリッサムは本当にいい香り、これがいい」など様々である。花を選ぶのに1時間かかったY君

2年生のY君は、植物や動物が大好きである。日頃から花に関心をもっており知識も豊富である。花に対する思い入れが強いためか、花を選ぶ際、何度も何度もハウスの中を歩き回るがなかなか決めることができないでいた。農家に手伝いに来ていた方が付き合ってくれたが、最後は泣きながら選んでいた。結局ローズ色のプリムラを一鉢選んだ。他の児童は皆二鉢選んだがY君だけは一鉢であった。しかし、とても満足そうに見えた。次の日、Y君は、家から大きな貝殻を一つ持ってきてその植木鉢に置いた。その組み合わせが素晴らしく素敵に見え、他の児童から「すごい」と歓声があがった。さらに、彼の満足度は高まったようである。

しばらくすると、彼の鉢に小枝が刺さっていた。訳を尋ねると、プリムラの芽を食べに鳥が来たため、鳥が羽を広げられないようにすると鳥が来ないという情報を祖母から得て、それを実践したのである。花をひと鉢育てるにも、それぞれの思いが表れる。

世話の大切さに気付いたC君

次の作品はC男君の学習カードである。記入内容からも花の数に生長の喜びを感じ、世話の大切さに気付いていることが読み取れる。

4 実践事例のまとめ

この二つの実践から花や野菜の栽培が児童の成長に少なからずよい効果をもたらしていることが分かった。以下がそのまとめである。今後も、植物に関する効果的な学習活動を開発し、実践していきたいと考える。

<実践を通して分かったこと>

農家の人に直接接することで花を育てることの楽しさや生命の不思議さに気付いた。

農家の人にたくさんの花の名前や育て方、殖やし方、植え方、土の種類、世話の仕方などを教わった。その花を育てた人に直接教わることによって、自分もあのように育てたい、これからどんな花が咲くのだろう、どのくらい大きくなるのだろうという期待ももてた。また、給食の残飯で肥料が作られていることや土にもいろいろな種類があることなども教わり、認識を新たにすることができた。

農家の人に対しても花の気持ちがわかってすごい、あんなにきれいな花を咲かせることができるとすごい、花に対する思いが強いなど、生き方にまで共感する児童もいた。

また、種からだけでなく挿し木からでも増やすことができることで植物の生命力の強さにも感動していた。

寄せ植えやフラワーアレンジメントで花の素晴らしさに気付き多くの感動を生んだ。

種から育てる、球根を植えるなどの方法で花の栽培を経験してきた児童は、すでに咲いている花を植えることで新たな気付きを生んだ。朝顔にはつるがあるがパンジーやノースポールにはない、根がクモの巣のようになっている、花にはいろいろな色や匂いがある、朝顔の根は黄色っぽいのアリッサムやの根は白い、花も生きているなどである。植えた後は華やかさがあって、家に持って帰りたいという声が上がった。花の美しさで感動し、家族にも見せたいという気持ちをもったようである。

アレンジメントでは、小さなカップに生けた花がまた、違う花の魅力を引き出し、花の楽しみ方を再認識できた。

- 2 小学校における花育活動計画

1 活動計画

生活科 「花や野菜を育てよう」

目標

- ・自分が育てたい野菜や花を植木鉢や畑で育てる中で、育つ場所や生長の様子に関心をもったり親しみを感じたりしながら世話する喜びを味わい、植物を大切にすることができるようにする。
- ・育てた花や野菜を活用し、自分の生活を豊かにするとともに、花や野菜を活用する楽しさに気付く。

1年 花いっぱいになあれ(20時間) 内数字は時間数

<活動計画>

花を育てよう(9時間)

- ・畑やプランターで育てる花を決める。
- ・2年生にもらったアサガオの種をまく準備をする。
- ・種まきをする。
- ・世話や観察をする。

花を楽しもう(7時間)

- ・咲いた花やできた種をお世話になった人、誕生日を迎えるクラスの友達、新しく入学する幼稚園や保育所の友達などにプレゼントする。
- ・行事(母の日・クリスマスなど)に合わせたアレンジやアサガオのつるを利用したりリース作りをして楽しむ。

お世話になった6年生を花で送り、1年生を花で迎えよう(4時間)「

- ・プランターや畑に春咲きの球根や花の苗を植える。
- ・花卉栽培農家に行って、花の苗や球根の植え付け方を教わりながらコンテナガーデンを作る。
- 日常的に世話をする。

2年 おいしい野菜を食べようね(20時間)

<活動計画>

野菜を育てよう(5時間)

- ・畑や自分の植木鉢で育てる春まき、春植えのものを決める。
- ・土作りや種まき、苗植えをする。
- ・世話をする。

収穫を祝おう(10時間)

- ・野菜を収穫し、茎や葉で遊ぶ。サツマイモのつるを利用したリースを作る。
- ・収穫を祝う計画を立て、準備する。
- ・家の人や友達と料理をしたり育てた野菜のことを知らせ合ったりして収穫祭をする。

や野菜を育てよう（5時間）

- ・畑や自分の植木鉢で育てる秋まきのものを決める。
- ・土作りや種まき、苗植えをする。
- ・コンテナガーデンをつくり、世話をする。

<家庭・地域との連携>

地域の農家の方に野菜の植え付け方や土作り、世話の仕方などを教わる。

野菜の種や苗を地域の店で購入する。（農協や苗作りの農家を含む。）

保護者や農家の方と共に収穫を祝う会をする。

農家の方が育てている畑の作物を参考にしながら、野菜の世話をしていく。

花卉生産農家の農場に行き、自分が好きな花の苗を買い、植え付け方を教わりながら自分の植木鉢に寄せ植えをする。または、種から花の苗を育て、自分の植木鉢に寄せ植えをする。

花や種をお世話になっている人にプレゼントする。

2 年間行事計画との調整に工夫・配慮したこと

- ・クリスマス前に1・2年ともにリース作りをする。1年は、朝顔のつるを、2年生はサツマイモのつるをそれぞれ利用する。
- ・卒業式、入学式に自分たちが育てた花を飾る。
- ・就学時健診の際、花の種のプレゼントをする。
- ・母の日や友達の誕生日にフラワーアレンジメントをしてプレゼントする。（この活動はいままで行っていませんでしたが、今後入れたいと思います）

3 花壇作りやアレンジメントの実施に当たって事前に準備したり児童に対して注意、配慮したこと

- ・母の日、クリスマスなどは家庭によって、配慮を要しなければならないことがあるので、児童の実態をよく把握しておく。また、表現を工夫する。
- ・花壇作りは、土づくりから児童とともに行う。米糠などの肥料なども保護者に声をかけて集めておく。
- ・長期の休みや土日の水やりは当番を決めたり、ペットボトルなどを利用したりして、水が切れないように配慮する。
- ・アレンジメントの材料はできるだけ自分たちで集めさせるようにする。そのために、空き容器は普段から集めておく。花は、買った物だけでなく、雑草、家に咲いているもの、学校の花壇の伸びているものなど身近なものを利用する。
- ・普段から身近な粗大を活用して教室や校内に花を飾り、イメージを豊かにするよう努める。

- ・花壇や植木鉢に植えるものは、手間がかからず丈夫なものにする。
- 夏 アサガオ、ヒマワリ、ヒャクニチソウ、ニチニチソウ、センニチコウ、キバナコスモス、ケイトウ、コスモス、プリムラ、フウセンカズラ、マリーゴールドなど
- 秋・冬 パンジー、ノースポール、アリッサム、フユシラズ、ビオラ、ヒメキンギョソウ、オオアラセイトウ、サクラソウ、球根など
- ・アレルギーや皮膚の弱い児童には、配慮する。

4 児童の花育への取り組み姿勢や教育的効果に関すること

- ・発芽、開花など生長の喜びを感じる。
- ・世話をする楽しさ、収穫の喜びなどを味わえる。
- ・種から、球根から、挿し木からなど様々な方法で発芽させることで生命の神秘さを感じる。
- ・花を育てられたということから自分自身に自信がもてる。
- ・花や野菜を育てることが好きになる。
- ・野の花にも関心を示し、雑草を摘んできて飾ったりする。
- ・名前の由来や花、野菜への関心が高まる。野菜嫌いでも自分が育てたものは食べられる。
- ・自分で育てたものを活用して生活を豊かにする実感がもてる。

5 外部からの指導・支援を受け入れることの効果や問題点に関すること

<効果>

- ・様々な人とかわかることで、その人々の生き方や仕事に対する姿勢に共感できる。
- ・プロに教わることで専門的な知識を得ることができる。
- ・活動に広がりや深まりが出る。
- ・活動の成功率が高くなる。

<問題点>

- ・打ち合わせの時間とスケジュールの調整が難しい。
- ・学校の予算が限られているため、謝金が必要な場合、材料費がかかる場合のむずかしさがある。
- ・話を聞くことが多くなり、児童自身の活動時間が短くなる。
- ・継続した指導を希望する指導者と受け入れる学校の体制とがうまくかみ合わず互いに遠慮があり、指導者の熱意が十分生かせない場合がある。

6 委員会活動への意見

月1回の活動、対象が5、6年生なのでプロの方の指導を受けやすいのでは、ないか。また、フラワーコンテスト応募予定の学校などは、専門家の指導を受け栽培したものを通して、全校に花を活用した活動を広げていきやすい。誕生給食時のアレンジメント(給食委員会とのタイアップ)、勤労感謝集会での集会委員会の活動への参加等、今後に期待できる。